

2019年度 小規模多機能ホームみんなんち 事業報告

小規模多機能ホームみんなんち

ホーム長 寺西 大輔

【事業目的】

- ① 要支援、要介護の高齢者が可能な限り住み慣れた自宅及び地域において、本人及び家族が望むその人らしい自立した生活が最期まで送れるよう小規模多機能型の特徴を活かした「支えるサービス」を提供します。
⇒今期、終了者9名の内、ご自宅にての最期に至った実績はないが、自宅で最期までと明確な意向となっているご家族様は、1名いらっしゃいます。
- ② 生活クラブ安心ケアシステムの「生活クラブ10の基本ケア」に沿った「日常的な生活リハビリケア」を継続的に実践します。
⇒部分部分で、断片的に実施することはできたが、継続的な実践には至らず。来年度は、特に8（やりたいことを見つけ、実現できる手助けをする）と日常的な生活リハビリを織り交ぜながら、実践していきたい。
- ③ 生活の基盤を支える医療との連携体制を強化し、医療と介護が「適切に融合した体制」を整えます。
⇒特に退院後の連携体制を強化したことで、自宅生活継続につながる取組みができた。
- ④ 地域密着型サービスとして、地域の方々との関わり、行政、関係団体等との連携を深め、信頼関係を築き、「地域と高齢者をつなぐ」取組みに貢献します。
⇒近所の保育園との関りが昨年度に引き続き、取り組むことができた。

【事業活動報告】

- ① 運営規定に定められた人員配置基準をクリアすべき人員を確保できるよう職員の定着率アップにつながる教育体制（OJTなど）構築に取り組みます。
⇒定着率アップにつながる教育体制とならなかったが、休職していた常勤職員が復帰するなどにより、配置基準をクリアする頭数的な人員は整ってきた。
- ② 生活クラブ安心ケアシステム（生活クラブ10の基本ケア）を基軸とした生活リハビリケアを実施しつつ、現状の現場の進め方（リーダー業務）、活動内容及び連携の方法などを改良、改善及び見直すことで、ケア全般の整合性を高めます。
⇒人数はいるが、リーダー不在の日々が多く、10の基本ケアに則した、生活リハビリは、部分部分の取組みとなった。
- ③ 現場の核となる常勤職員が2名での年度開始となるため、少数精鋭の組織体制をめざし、全職員が情報共有できるしくみづくりに取り組みます。具体的には、申し送りの方法、ケア関係帳票類の管理、記録類の整備、職員会議、カンファレンス及び研修のあり方に情報共有の浸透性を優先順位として取り組みます。
⇒今期の前半に、年度開始の常勤2名が離脱するなど、7月以降は、かなり厳しい状況に追い込まれたが、後半になり、若手の看護師の入職、休職していた常勤1名が復帰など、また、以前からケアに対する方向性が異なっていた職員の退職によって、徐々にではあるが、めざすべき体制の足掛かりをつかむことができた。また、来年度に向けてのえごた事業所との連携は、新型コロナウイルスの影響にて中止となってしまった。

- ④ あんすこ、病院、居宅支援事業所などへ、できるだけ範囲で営業活動を行っていき、現状の高頻度利用となっている「通い」サービスを適度な頻度になるよう1年をかけて調整します。
⇒特に近隣の「あんすこ」2事業所とは、虐待対応や家族を含めた末期がんの方の対応を連携したことで、みんなちでの取り組みや姿勢を知って頂き、新規紹介の頻度が以前より増加した。
- ⑤ 本人及びご家族のニーズの変化を丁寧に聞き取り、その人が望む自分らしい自立した生活が送れるよう3つのサービスを活かしたオーダーメイドのケアプランを作成します。また、そのケアプランに基づき、一人ひとりに合わせた小規模多機能型独自の介護計画を実践し、適切なサービスを提供します。また、ケアプランのケア内容の共有及び統一化として、定期的にカンファレンスを行いながら職員間での気づきや成功例及び失敗例を適切に検証及び評価し、ケアの改善につながるよう取り組みます。
⇒利用者様とその家族が、その人らしく在宅生活を継続できるケアプランと介護計画になるように試み、サービスの利用要望などは、すべて受け入れるのではなく、在宅生活を継続のために必要と思われる要望にはお応えする。また、定期的なカンファレンスを通じて、ケアの改善につながる取り組みは実施できた
- ⑥ 医療と介護の連携の取り組みを強化し、それぞれの役割を明確化することで、互の協力体制が認識でき、本人が自分らしく生活するための健康管理の基盤をつくれるよう取り組んでいきます。また、やむを得ずの病状再発や一時的な疾病などに罹患した場合のケアについて、優先すべきケアやそのリスクについて、その都度、ケアスタッフ及び家族も含めて話し合いケアの統一化を図ります。
⇒若手の看護師の経験を兼ねて、特に退院後の医療連携体制を強化するため、病院に出向くなど、自宅生活を継続するための医療体制を構築する事例を経験した。
- ⑦ 地域との関わりや心身ともにリフレッシュするため、近隣地域の外出機会を持つよう計画して行きべント、行政、関係各所の連絡会及び講演会などにも積極的に参加していきます。
⇒近所にある「なないろ保育園」の敬老会に招待されるなどの機会があった。
- ⑧ 災害対応について、定期的な訓練など実施し、災害時の対応に整えます。
⇒11月に夜間想定避難訓練と3月に避難訓練を実施。昨年10月の台風の際に、改めて、避難体制の構築と備蓄の必要性を感じた。

【事業実績報告】

登録者数（名）/介護報酬（万円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録数	17	18	17	17	19	19	19	20	20	21	19	19
介護報酬	535	511	550	524	518	556	565	595	595	576	576	561

⇒新規 9名 終了9名

【会議開催報告】

- ① 常勤会議 常勤職員対象（毎月実施）

運営に関わる重要事項の案件を検討、意見調整など

⇒今期末の2月頃から、まだまだ少ないが常勤が徐々に揃ってきていて、事業所運営に関する討議を始めている。

- ② 職員会議 全職員対象（毎月実施）

利用者登録状況、登録見込先、問合せ件数、実績報告、事故報告書・ヒヤリハットを共有する。

月間行事・社内研修等の日程・準備状況確認、職員会議の議題を検討する

⇒上記の内容にて毎月実施。

③ケース会議 全職員対象 (毎月実施)

ケアプランの共有化、新規利用者や日々の対応している中で、必要に応じて、ケアの共有を行い、ケアやADLを統一する。

⇒上記の内容にて毎月実施。

④運営推進会議 地域関係者対象 (年6回実施)

⇒4月、6月、8月、10月、12月、2月実施

⑤家族会 利用者家族対象 (年3回実施)

⇒実施できず。

⑥管理者会議 管理者対象 (毎月)

⇒参加し、本部との情報共有を図る。

【研修実施報告】

① 月別の計画 (法人全体共通研修に合わせる)

4月 倫理及び法令順守	10月 感染症予防
5月 接遇・マナー	11月 非常災害時の対応
6月 緊急時対応	12月 事故発生予防・再発防止等、安全対策
7月 認知症	1月 認知症ケア
8月 食中毒対策	2月 虐待防止・身体拘束排除
9月 疾病	3月 プライバシー保護

⇒予定通り実施予定していたが、新型コロナウイルスの影響にて、実施できなかった研修あり。

【年間行事実施報告】

4月 お花見	10月 外出
5月 外出	11月 紅葉狩り
6月 外食	12月 忘年会
7月 七夕	1月 初詣
8月 夏祭り	2月 節分
9月 秋祭り	3月 ひな祭り

⇒予定通りできなかった計画あり

ボランティアによる行事も計画：マンドリン演奏など

以上